



学校だより 青い鳥

平成29年度5月号
さいたま市立上落合小学校
平成29年5月1日作成

さいたま市中央区上落合4-14-24 TEL 852-5381
http://kamiochiai-e.saitama-city.ed.jp/ E-mail:kamiochiai-e@saitama-city.ed.jp



視界良好

校長 藤澤 太郎

最近の春はとても短いように感じます。直ぐに初夏の気候へと移行する気配があります。今年は、4月後半から降り注ぐ日差しがぐっと強く感じられました。そうして、吹く風があたたかく、気持ちの良い季節となりました。これは、まだまだ「春」の範囲なのだな！と確認します。

この季節の移ろいは、期待を抱かせる何かを必ず持っていて、特に冬→春は、「よろこび」や「エネルギー」に満ち溢れていて、子どもの成長への期待が大きなものになります。聴く側の気持ちもあるのでしょうか、校庭で遊ぶ子どもの歓声がとても大きく鮮明に聴こえてきます。

自分の田舎の話になりますが、、、安曇野の早春は雪解けから始まります。と言っても、現在は降雪量が少なく、里では雑草の芽吹きが春の道しるべとなっているのでは？と思われます。なかなか「早春賦」のようにはいきません。かつて、私が学生だった頃は農繁休業というのがあって、5月はいわゆる「田植え休み」で、1週間ほど学校が休みになりました。実家は農家ではなかったのですが、親戚の田植えの手伝いに2、3日出かけると、あとは完全に休みになります。こうなってくると、田舎は田舎の楽しみである、山菜取りに出かける日々でした。山菜は1週間と言わずその種類が変わっていきます。この時期はだいたい「ごごみ」がメインで、さっと茹でて削り節を振れば、口の中に春が充満し、一家でとても幸せな気分になりました。こうした一連の活動(行為)は、少々大袈裟ですが、単に地域性というよりは、山と共に・地域の自然と共に歩んで行こうとする、その地方の人々のある種の覚悟であり、確認のための作業と捉えることができます。

上落合の春はどうでしょうか？ご近所では、何と言っても学校や公園の桜ではないでしょうか。小学校1年生にしてみればずいぶん高いところに花が咲いているんでしょう、2Fの教室に来て初めて気が付くようです。花をじっくりと見るのは高学年の子どもたちです。好奇心や観察力がとても羨ましいです。比べて、子どもの感性がだいぶ薄れた私は、新都心のビル群に靄がかかったり、菜花のからし和えなんか定食についてくる瞬間、春だな～と感じたりします。

さて、4月には、「この1年の目標を立てましょう。」ということで、個人の成長の在り方や各学年の発達の段階にしたがって目指す指針を具体的に設定したところです。この、「目標」の扱いがとても大切なことで、「目標を見失う！」などの言葉があるように、見失った結果、残念なことになってしまう例もあると考えます。これには、毎日「視界良好」にして、夢や希望など目標に通じる気持ちを確かめ続けることが肝要ですよね。生活面にせよ学習面にせよ、自分で立てた目標を大切にしたいと願うばかりです。

ところで、春先は溪流釣りの解禁シーズンでもあります。田舎では、大人も子どもも釣りをしながらの山菜取りパターンが常ですが、溪流沿いに都合よく生えている山菜はそうはありません。ある時、対岸のなだらかな山肌に「タラの芽」を大量に発見したこと以外は、大概どちらも取らずの結果です。家に帰って気付くのは、岩魚の塩焼きは良いけれど、あの時、溪流の登り口にあったコシアブラを取っておけば、、、となります。しかし、不思議なもので、一日経って、次の日に同じ場所に入ったとしても、件のコシアブラは取らないんですよね。目標は明確で視界も良好なんですけどね、、、。今月は5年生の自然の教室や運動会練習などを予定しています。どの行事にも頑張りたいと思っています。

学校教育目標

あかるく なかよく たくましく